

# 安倍政権は 子どもをどこへ連れゆくのか

安倍晋三首相は、強い経済を復活させて教育を再生させたいと述べる。ここに、安倍政権の教育改革の基本課題が存在する。

強い経済と教育で、はたして、教育は真に再生できるのだろうか。いじめ問題をはじめとする、もろもろの深刻な教育問題は解決されるのか。

安倍の改革によって、むしろ、教育の危機はますます深刻化しないだろうか。子育てを困難にさせる格差と貧困はかえって拡大するのではないだろうか。なぜなら、いまの教育の危機と問題は、これまでの経済一辺倒の社会を追い求めたがゆえの産物だったからだ。

安倍首相は「愛国心」などの理念を徹底させるために、教科書検定制度の見直しを迫る。過去の歴史の過ちへの反省は「自虐史観」として排除する。その行く先には「憲法改正」と新たな権力支配の構図が見えてくる。「国家主義教育」への暴走が待ち構えているだろう。

安倍政権は、教育の現状をまともに分析しているのだろうか。いじめ対策のための「道徳の教科化」はあきらかに「上から目線」であった。いじめ解決が困難であるのは、子どもたちのいじめは社会のあり方と根深いところでつながっているからである。道徳の教科化は、問題の根深さが認識されず、諸現象の強引な解釈と問題の短絡化によって生み出された。

危機を一気に解決できる明快かつ単純なロジックの提言がもてはやされてはいないか。必要なのは、問題の根深さをそのままに認識し、ねばり強く解決策を模索する教育論である。本誌はそのために発行された。